

当健保の令和2年度の決算が、7月7日に開催された第102回組合会で可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

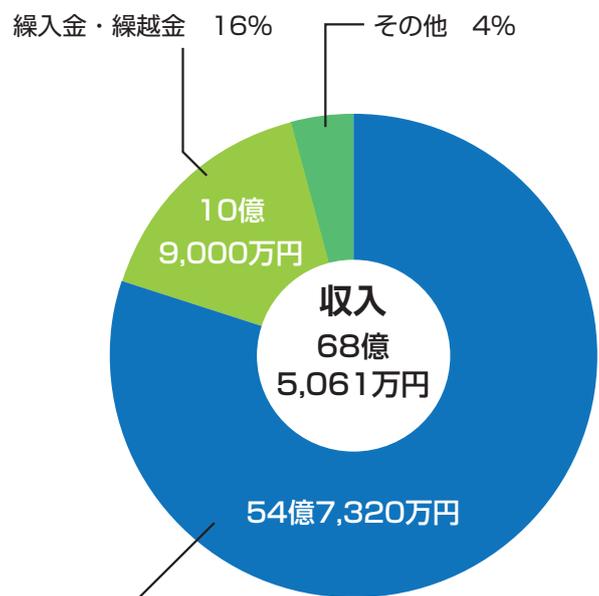
令和2年度 決算のポイント

一般勘定

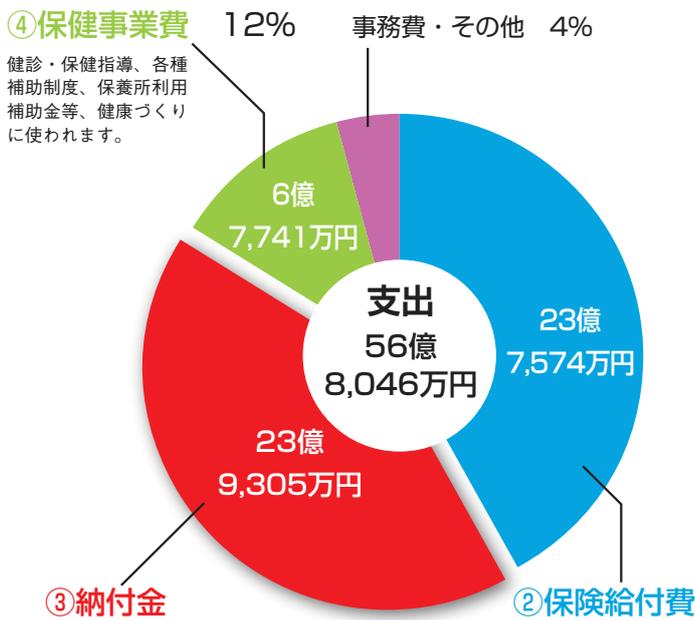
| 科目 | 収入 | |
|-------------|-------------|-------------------|
| | (単位：千円) 決算額 | (単位：円) 被保険者1人当たり額 |
| 健康保険収入 | 5,473,203 | 564,015 |
| 調整保険料収入 | 107,500 | 11,078 |
| 繰越金 | 650,000 | 66,983 |
| 繰入金 | 440,000 | 45,342 |
| 国庫補助金収入 | 13,308 | 1,371 |
| 特定健康診査等事業収入 | 22,604 | 2,329 |
| 財政調整事業交付金 | 116,681 | 12,024 |
| 雑収入 | 27,313 | 2,815 |
| 合計 | 6,850,609 | 705,957 |
| 経常収入合計 | 5,518,939 | 568,728 |
| 経常収支 | ▲51,897 | ▲5,348 |

| 科目 | 支出 | |
|-----------|-------------|-------------------|
| | (単位：千円) 決算額 | (単位：円) 被保険者1人当たり額 |
| 事務費 | 116,535 | 12,009 |
| 保険給付費 | 2,375,735 | 244,820 |
| 納付金 | 2,393,053 | 246,605 |
| 保健事業費 | 677,411 | 69,807 |
| 還付金 | 29 | 3 |
| 営繕費 | 2,341 | 241 |
| 財政調整事業拠出金 | 107,282 | 11,055 |
| 連合会費 | 1,991 | 205 |
| 積立金 | 6,000 | 618 |
| 雑支出 | 82 | 8 |
| 合計 | 5,680,459 | 585,373 |
| 経常支出合計 | 5,570,836 | 574,076 |

| | | |
|-------------|--------|----------|
| 基礎数値 | 被保険者数 | 9,704人 |
| 平均標準報酬月額 | 健康保険料率 | 1000分の78 |



①健康保険収入 80%
被保険者と会社から納めていただく保険料です。



②保険給付費 42%
病気やけがをしたときの医療費・手当金として使われます。

③納付金 42%
高齢者医療制度への拠出金となります。多くの健保組合が赤字となっている原因です。

④保健事業費 12%
健診・保健指導、各種補助制度、保養所利用補助金等、健康づくりに使われます。

介護勘定

| 科目 | 収入 | |
|---------|-------------|---------------------------------|
| | (単位：千円) 決算額 | (単位：円) 介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額 |
| 介護保険収入 | 777,756 | 137,001 |
| 繰越金 | 30,521 | 5,376 |
| 繰入金 | 15,000 | 2,642 |
| 国庫補助金受入 | 1,983 | 349 |
| 合計 | 825,260 | 145,369 |

| 科目 | 支出 | |
|----------|-------------|---------------------------------|
| | (単位：千円) 決算額 | (単位：円) 介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額 |
| 介護納付金 | 798,014 | 140,570 |
| 介護保険料還付金 | 4 | 1 |
| 合計 | 798,018 | 140,570 |

| | | |
|-------------|-----------------|----------|
| 基礎数値 | 介護保険の対象となる被保険者数 | 7,866人 |
| 平均標準報酬月額 | 介護保険料率 | 1000分の16 |

決算のあらまし

【一般勘定】

令和2年度は経常収支で5,190万円の赤字となりました。保険料率を7.8%（1000分の78）に据え置いたことから、健康保険収入は前年度並みの水準となりました。一方、主な支出である保険給付費は新型コロナウイルス感染拡大の影響で一時的に減少したものの、納付金は依然として高水準となっており、財政を大きく圧迫しました。

●収入

みなさんと会社から収めていただく健康保険料が当健保の主な収入です。令和2年度の①健康保険収入は54億7,320万円で前年度と同水準となりました。

収入不足を補てんするため、前年度からの繰越金6億5,000万円、別途積立金からの繰入金4億4,000万円を計上しています。

●支出

当健保の主な支出は、みなさんにご家族が病気やけがをしたときの医療費や手当金などの②保険給付費で、23億7,574万円となりました。新型コロナウイルス感染拡大による受診控えの影響で、前年度よりも5.4%減少しました。

高齢者の医療費を支えるために国に支払う③納付金（前期高齢者納付金・後期高齢者支援金・退職者給付拠出金）は、23億9,305万円で、前年度とほぼ同水準（0.2%減）となりました。

各種健診・保健指導等の健康づくり事業の費用としては、④保健事業費6億7,741万円の支出となりました。

納付金は毎年度、法律に基づいて算定された額を国に納付します。なかでも前期高齢者納付金は、変動が大きく定期的な財政運営に支障をきたす大きな要因となっています。前期高齢者納付金は、全国の前期高齢者（65～74歳）の医療費と、当健保に加入している前期高齢者の医療費を基に、当該年度の概算額と2年前の精算額によって計算されます。令和2年度は、当健保の前期高齢者の医療費が、約7,000万円と過去15年間で2番目の高水準となったことから、令和4年度は当健保の前期高齢者納付金の急増（対令和2年度で約8億円の増加）が見込まれます。

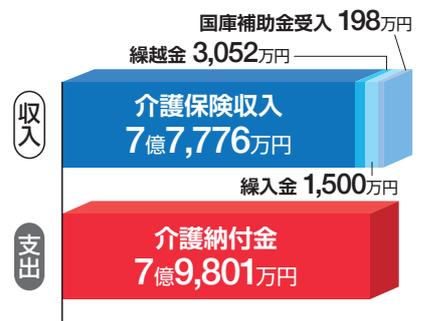
【介護勘定】

令和2年度は納付金算定の改定計画（健保組合の人数割から総報酬割への変更）の完了により、当健保においては納付金増加が見込まれたため保険料率を1.3%から1.6%へ引き上げ、なお不足分には前年度からの繰越金と準備金取崩しにより対応し収支均衡を図りました。

今後も介護納付金は増加していくことが見込まれており、介護保険料率の見直しは必須となる見込みです。



新型コロナの影響で保険給付費が一時的に減少した一方、国へ支払う納付金は依然として過重な負担となっています。



決算のポイント

- 健康保険収入は前年度と同水準となりました。
- 保険給付費は新型コロナの影響で一時的に減少したものの、納付金が依然として過重な負担となっており、経常収支で5,190万円の赤字決算となりました。
- 引き続き健康管理事業に重点を置いて保健事業を実施しました。
- 介護保険料率を引き上げたものの、介護保険料のみでは介護納付金を賄うことができず、繰越金や繰入金により収支均衡を図りました。

現在、全国の健保組合は高齢者医療制度への過重な納付金負担や医療費の増加による厳しい財政状況が続いています。今後、団塊の世代が75歳に到達し始めることから、高齢者医療費の高騰による後期高齢者支援金の増大と、更に当健保においては令和4年度に前期高齢者納付金の急増が見込まれています。そのため中長期的な収支改善に向け、一段と踏み込んだ疾病予防策が重要になっています。健診や人間ドックの受診率向上によるスクリーニング機能の強化をはじめ、健診後の保健指導などの重症化予防を一層推進してまいります。

みなさんにおかれましては、健診や人間ドックなどの保健事業を積極的にご利用いただき健康管理にお役立ていただきますとともに、医薬品はジェネリックをご選択いただくなど、引き続き医療費の適正化にもご協力ください。